

8月17日（日）主日礼拝レジュメ

「聞き、赦し、癒す神」 歴代誌第二7章11～16節

○神の主権により、建てられた主の宮

- ・年月・場所(1歴代誌21:28)・建てた人物・材料・・・すべて良いものだった
- ・完成のとき、神の栄光が宮に満ち、祭司たちさえ近づけなかった(7:2)

○礼拝の中心

- ・民は神の臨在を目の当たりにし、顔を地につけて拝み、喜びで満たされた(7:3,10)
- ・「私たちが罪を犯したとき、どうか赦してください」という悔い改めの祈り(6章参照)

○礼拝者としての姿とその恵み

—神様が求めること/礼拝者の姿—

- ・自らへりくだる

(神の前になす術がないことを認め、膝をかがめ、心も体も神の前にひざまずく)

- ・祈る(罪の告白とゆるし)
- ・御顔を慕い求める(神様ご自身を渴望し、主を探し求める)
- ・立ち返る(神の道に戻る)

—神様が与えてくださる恵み—

- ・祈りを親しく聞く

(本来遠い存在の神様が、私たちの近くに来てくださり、祈りを聞いてくださる)

- ・罪を赦す(悔い改めを聞き、赦す)
- ・地を癒す(平和と回復)